成城学園初等学校　社会科授業研究会

【第5回】
子どもと社会科に向き合う会

テーマ：働く人の姿や思いを活かす社会科
～地域学習や産業学習に働く人を位置づけるとは～

講師　**小林宏己先生**

（早稲田大学 名誉教授　FELIVE シニアフェロー）

2026.1.17(土) 会場:成城学園初等学校

ごみ収集作業員のAさん、新しい漁業に挑戦するBさん。社会科では働く人の姿や思いが教材に位置づけられます。教科書や副読本、資料集にも、必ず働く人のお話は掲載されています。社会科の教材研究を通して、子どもにとって身近であったり、子どもが意外なつながりを見出したりする人を探すことに力を注いだ経験をもつ先生もいらっしゃることでしょう。では、社会科の授業において、働く人から子どもは何を学ぶのでしょうか。私たちは働く人の何を教材化するべきなのでしょうか。働く人の姿や思いから社会科を学ぶ授業とは。向き合う会では、第１回から第４回までの実践において、社会科的事象に深く携わる人を見出し、関わりながら教材化を試み、実践をして参りました。今回の向き合う会では、小林先生から改めて働く人の姿や思いから社会科を学ぶ授業の在り方をじっくりと学びたいと思っています。

13:30～受付　　14:00　開会　　17:00　閉会

第１部　　実践紹介

宮田諭志（成城学園初等学校）
４年「ごみ収集作業員のAさん」
田中晨弘（立教小学校）
５年「カキ養殖に挑戦するBさん」

第２部　講演

小林先生より働く人の姿や思いを活かした社会科授業についてお話をいただきます

※講演後、グループワークを予定しています

参加費　　資料代として1000円を当日いただきます
申し込みフォーム　リンク https://h7.cl/1kehg QRコード

当日の運営についてご質問等ありましたら担当宮田までご連絡下さい。
miyata-s@t.seijogakuen.ed.jp

成城学園初等学校　社会科授業研究会

本会の願い

一緒に語り合いませんか？

私たち成城社会科部は、社会科という教科を通して「よい選挙民としての資質を育てる」ことを目指しています。そこには、子ども一人ひとりがみずから考え、みずから行動し、みずから責任をとろうとする人になってほしいという願いを込めています。そうあるためには、子どもが今葛藤していること、心や体が動いていることが表れるような授業を日々創っていくことが大切だと考えています。しかし、思いはあれど実践することはとても難しく、理想と現実の狭間で足踏みしてしまいます。そこで、今一度"社会科の授業とはどうあることがよいのだろうか""子どもの『今』が授業に表れているだろうか"という問いに向き合う授業研究会を開くことに致しました。

部員は若手と中年です。"そもそも授業づくりって何から始めたらいいの？""子どもや保護者の方との関係づくりって難しい…"といった悩みも尽きません。向き合う問いは年齢によっても様々です。皆さんはいかがでしょうか。

この会が、多様な立場・世代の先生方が集い、社会科の授業や目の前の子どもとの関わりに向き合う場となってほしいと思っています。皆さん同士のつながりが広がっていけば、なお幸いです。ぜひ一度、成城学園初等学校の教室にいらしてください。

第４回 社会科と子どもに向き合う会レポート

2025.10.3　会場:立教小学校

平日の金曜日の午後というお忙しい日程にもかかわらず、多くの皆様にご参会いただき、誠にありがとうございました。

今回は、5年生の社会科「未来につながる水産業」の授業を公開いたしました。日本の水産業の生産量の移り変わりを追いながら、その原因を資料から読み取りつつ、実在するかき養殖に携わる漁業組合の職員の方のライフヒストリーを丁寧に読み込みました。本時ではその方の人生から何を学んだのかを考える時間を取りました。協議会では、「子どもたちの意欲」に対して「教師による介入」が多くあり、それゆえに学びの可能性を狭めてしまったのではないかということが大きな論点となりました。より子どもたちの意欲を信頼して、教師が対話の話題や方向性を先導するのではなく、子どもたち同士の対話を徹底していくことで、学びに更なる深みを持たせることができるのではないかとの示唆をいただきました。また社会科において個人のライフヒストリーを取り上げることによって多くの共感を生み出しやすくなる半面、社会的事実への客観性に乏しくなるリスクもあることを先生方と共有しました。どちらものバランスをいかに考えて実践していくか今後の課題となりました。

立教小学校で初めて行われた外部向けの公開研究授業。ご参会いただいた皆様からの熱心なご質問やご指摘により、私自身も授業の本質について深く見つめ直し、子どもたちを捉え直す機会となり、学校としても今後の授業研究の在り方を考える貴重な機会となりました。心より感謝申し上げます。

田中晨弘
（立教小学校）

参会された皆様より

〇どの子も下を向くような場面がなく、顔を上げて能動的に学んでいるのがいいなと思いました。指導案が精緻に練られていて素晴らしく、特に単元構想や目標を受けてのアプローチなど、自分の授業づくりにも活かしたいと思いました。あれだけ意欲的に学ぶ子どもたちだから、先生が声を張り上げて、発問したり言葉を重ねたりしなくとも授業になっていくと思います。（中略）

協議会で、N君と〇君の話題が上がりました。あのように地道に学びを深めている子をどう生かしていくか、それが個が生きる授業なのだと改めて考えることができました。「かっこいい」を何度も記述しているSくんに言及するなど、田中さんが子どものノートをよく読まれていて感心しました。また窓側に掲示されている自学ノートも、子どもにとっても教師にとってもよいフィードバックになり、素晴らしい実践だと思いました。

〇大変有意義な時間でした。学びも多くありました。話し合いや意見交換もたくさんできたので勉強になりました。今回初めて田中先生の授業を参観させていただきましたが、先生のキャラクターを最大限に生かした、子どもたちを惹きつける素晴らしい授業だったと思います。またぜひ田中先生の社会科を参観させていただきたいです。

当日の運営についてご質問等ありましたら担当宮田までご連絡下さい。

miyata-s@t.seijogakuen.ed.jp